

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年3月28日  
函館市立石崎小学校

1 本年度の重点教育目標

自分の考えをもち 進んで伝え合う子 ～すすんで つづけて 元氣よく～

2 本年度の取組の重点

◇経営上の重点 (1) 重点教育目標の実現を目指し、校務運営組織の活性化と働き方改革推進に努める。(2) 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育課程の編成と実施・評価に努める。(3) 子供の生命と安全を守る危機管理体制の確立に努める。(4) 校内研修の充実及び教職員の資質・指導力の向上に努める。(5) 地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。(6) 子供たち・保護者が安心して閉校・統合を迎えられるようその準備に努める。  
◇指導上の重点 (1) 「主体的に学び、考えを伝え合い、学びを深め」学ぶ喜びを味わえる学友指導の充実に努める。(2) 豊かな心と進んで実践する態度を育む道徳教育の推進に努める。(3) 生徒指導の機能を生かした学級経営の充実に努める。(4) 生命の尊さを自覚させ、健康・安全教育の充実に努める。(5) 自己の生き方についての考えを深め、自己実現を目指す態度を養う特別活動の推進に努める。(6) 児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行う特別支援教育の充実に努める。(7) 銭亀沢スタンダードに基づく教育活動の推進とコミュニティ・スクールの円滑な運営に努める。(8) 統合に向けての児童の不安を軽減するための交流学習の充実に努める。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野                   | 評価項目   | 自己評価結果 |   | 学校関係者評価  |          |             |
|----------------------|--|--------|---|----------|----------|-------------|
|                      |  | 達成状況   | 改善の方策   | 自己評価の適切さ | 改善の方策の評価 | 主な意見(改善策など) |
| 確かな学力をはぐくむ教育の推進      | 授業では、児童が互いに交流して主体的・協働的に問題を解決し、思考力・判断力・表現力を高めていくための工夫・改善が行われていたか。 | b      | 少人数の特性を生かし、個に応じた指導を徹底するとともに、学習面以外にも委員会等の場面や東小との交流学習で、自らの考えや意見を交流する機会を多くもつよう工夫した。学習常規についても学校全体で取り組み、徹底した。統合校においても、引き続き、児童の持ち味を伸ばす教育を続けていく。 | A        | a        |             |
|                      | 学習のルール(石崎スタンダード)を徹底し、基礎基本の定着を目指した授業を実践することができたか。                 | a      | 学習常規についても学校全体で取り組み、徹底した。統合校においても、引き続き、児童の持ち味を伸ばす教育を続けていく。   | A        | a        |             |
| 豊かな心を育む教育の推進         | 保護者や地域住民との信頼関係を構築し、共に協力しながら温かい環境の中で子供の心を育てていたか。                  | b      | コロナ禍の現状を考慮しつつ、外部人材による授業を設定し、児童に対してより深い知識の定得や豊かな情操を育む教育に取り組んだ。家庭ともきめ細かく交流する機会を設け、豊かな心の育成を学校と家庭が協力・連携して取り組んだ。                               | A        | a        |             |
|                      | 外部人材や地域素材の活用など、石崎小だからこそのできる、石崎小学校でしか味わえないような体験的な教育活動を実践していたか。    | b      | 家庭ともきめ細かく交流する機会を設け、豊かな心の育成を学校と家庭が協力・連携して取り組んだ。  | A        | a        |             |
| 健やかな体を育む教育の推進        | 子供が運動する習慣をつけると共に、体力づくりを目指す指導や環境の充実・改善が図られていたか。                   | a      | 長距離走や鉄棒など、自分の成長を可視化し続けてがんばろうとする意欲付けを意識しながら計画的に体力作りに取り組んだ。安全教育に関しては、外部人材を招聘し交通安全教室や町会の協力のもと下校パトロールを実施した。                                   | A        | a        |             |
|                      | 子供の生命と安全を守るため、創意工夫を凝らした体験的な安全教育を推進することができたか。                     | b      | 長距離走や鉄棒など、自分の成長を可視化し続けてがんばろうとする意欲付けを意識しながら計画的に体力作りに取り組んだ。安全教育に関しては、外部人材を招聘し交通安全教室や町会の協力のもと下校パトロールを実施した。                                   | A        | a        |             |
| 学校における指導体制等の充実       | 教育目標の実現に向けて教職員が適切な役割を果たすと共に、相互に連携しながら教育活動に取り組むことができたか。           | a      | 会議等では児童の実態交流を密に行い、教職員全体で児童の成長を促すよう取り組んだ。ICT教育に関しては、一人一台端末(クロームブック)の積極的な活用に取り組み、教師の研修や授業での積極的活用に取り組んだ。                                     | A        | a        |             |
|                      | 学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。                                     | b      | 会議等では児童の実態交流を密に行い、教職員全体で児童の成長を促すよう取り組んだ。ICT教育に関しては、一人一台端末(クロームブック)の積極的な活用に取り組み、教師の研修や授業での積極的活用に取り組んだ。                                     | A        | a        |             |
| 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実 | コミュニティ・スクールとして家庭・地域と一体となった学校運営を推進していたか。                          | b      | コロナ禍により、CSとの密な連携ができなかったり、地域行事等の自粛により地域一体の学校運営ができない状況であった。今後の状況を慎重に読みつつ、新設校においても、地域と共に児童に関わる学校を目指し、取り組んでいく。                                | A        | a        |             |
|                      | 家庭・地域・学校がめざす子供像や教育目標、学校運営の基本方針を共有することができたか。                      | b      | コロナ禍により、CSとの密な連携ができなかったり、地域行事等の自粛により地域一体の学校運営ができない状況であった。今後の状況を慎重に読みつつ、新設校においても、地域と共に児童に関わる学校を目指し、取り組んでいく。                                | B        | b        |             |

■ 自己評価達成状況

|   |                 |
|---|-----------------|
| a | ほぼ達成できた (8割以上)  |
| b | 概ね達成できた (6割以上)  |
| c | 十分ではない (4割以上)   |
| d | 達成できなかった (4割未満) |

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| A | 自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。   |
| B | 自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。  |
| C | 自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。 |
| D | 自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。         |